

第3回 JR 播但線 維持・利用促進ワーキングチーム (WT) 議事録

■日 時：令和4年12月2日（金）15:45～17:45

■場 所：神河町役場本庁舎3階 第3会議室

■参加者：別添のとおり

1 開会

(朝来市長)

- ・神河町のご協力に感謝する。
- ・利用促進に取り組んでいく。

(神河町長)

- ・生野～長谷のウォーキングを実施した。日常利用等の利用促進に取り組んでいく。
- ・卓上のゆずかちゃんは神崎フードから提供してもらっている（観光協会会長が社長）。

2 議題

(1) 利用促進の取組検討結果（協議会への報告内容）について [資料1、2]

→事務局（但馬県民局）から説明

- ・第1回、第2回WTの結果をとりまとめた。
- ・播但線の現状・課題から利用促進の方向性を整理し、方向性ごとの利用促進策の案について、それぞれ短期的、中期的、長期的に取り組む内容に分けて位置づけた。
- 利用促進の方向性
 - ① 幅広い世代の積極的な日常利用を促す取組みの推進
 - ② 駅周辺の利活用やコミュニティの場の創設など活性化方策の検討及び実施
 - ③ 観光客の移動手段や観光PRなど利便性向上策の検討及び実施
 - ④ 兵庫DCや万博を契機とした観光利用者数の増加に向けた取組みの推進
 - ⑤ 地域の発展にも繋がる地域公共交通体系の構築
- ・目標は2027年度に輸送密度2,000人/日を達成することとする。
- ・今後の展開としては、WTは継続し、協議の中で確定した施策は別途組織する「但馬地域鉄道利便性向上対策協議会」に引継ぎ、実効性を高める。まちづくり施策及び寺前駅以南の市町との連携を図るとともに、国の積極的な関与を求めていく。
- ・これらの内容で協議会へ報告することについて、委員の了承を得た。

(JR兵庫支社長)

- ・報告書のとりまとめにあたって、様々な立場から多くの提案をいただき感謝申し上げる。
- ・4月に収支発表してから、兵庫県はいち早く協議会・WTを設置し、議論の場を設定いただいたことに感謝申し上げます。
- ・輸送密度2,000人を目指すとのことでハードルは高いが、実効性のある施策を確認するためにもPDCAサイクルで効果を見極めたい。
- ・兵庫DC、大阪・関西万博はチャンス。JRも皆様と一緒に取り組んでいきたい。

(中播磨県民センター長)

- ・寺前駅以南との施策連携に関して、播但線連絡協議会がすでに動いている協議会であり、大きなパートナーと考えている。そちらとの連携も今後の体制作りのなかで検討いただきたい。

(神河町長)

- ・そのような民間主体の協議会が動いていることは非常にありがたい。連携を進めたい。
- ・中播磨地区との連携・協議も強化したい。
- ・国も言っているが、地方に光をさらに当てていくのが大事と考えている。

(JR 兵庫支社長)

- ・沿線の皆様が播但線をよくしようという取り組みには感謝。一方で長い目で見ると利用者数は減少の一途であり、今後も減少傾向は間違いない。
- ・沿線環境や将来性を踏まえると、これまで行ってきた利用促進施策の議論に加えて、20、30年先を見据えた今後のあり方といった議論についても行っていく必要がある。
- ・これまでは利用促進策をメインに検討してきたが、このままでよいのか路線のあり方を今後も議題として検討いただきたい。JR としても議論に参画し、ご協力したい。将来を見据えてあり方を検討させていただきたい。
- ・国の法改正の枠組みがまもなく提示されるため、そういったものも活用しながら地域公共交通のあり方の議論を深めていきたい。

(但馬県民局長)

- ・非常に重要な視点であるが、人口の減少と公共交通利用者は同じトレンドとは考えていない。高齢者など、どのようにレポートしてもらうか。イベントなどによりきっかけ作りはできているがどのように継続するか、が重要と考えている。是非ご助言いただきながら進めたい。

(中播磨県民センター長)

- ・脱炭素の視点も重要になってきている。
- ・人口減少、少子化は自明であるが、まちづくり等との連携が必要。
- ・イベントをきっかけにしたまちづくりの再構築。昔生まれた場所に住み続けることが本当によいのか、行政側もきっちり考えないといけない。

(JR 福知山管理部長)

- ・これまで利用促進策にご協力いただいていたがあまり効果が出ず、利用者は減少を続けているというのが現状。今回のご提案の策は、これまでよりもスピーディに踏み込んで実行しなければならない。
- ・利用促進策を行う上では、数値等によりご利用の実績を抑えて PDCA サイクルを回して、効果的な施策に重点を置いて実施する。

- ・今後は本当に鉄道が必要なのかという視点をもって、結論ありきとせず考えていきたい。

(朝来市観光協会会長)

- ・非常に重要な路線であることに変わりなく、残していこうという利用促進策であり、JRにもそのような観点で利用促進策と一緒に取り組んでほしい。

(2) 意見交換

(いくの地域自治協議会会長)

- ・各駅で立ち上げている促進協議会のメンバーを利便性向上対策協議会に入れてもらえないか。

(但馬県民局長)

- ・但馬まるごと感動市、食の祭典を行った。2点、①但馬でイベントを実施する際は車での来場を前提と考えていたが、公共交通機関によるPRしかなかったところ、満員で乗れないなどの苦情があるほどだった。参加者の意識が変わっているのではないか。②イベントを将来につなげる必要がある。ボンネットバス、うみやまむすびに乗ることを目的に来場された方が多かった。これをきっかけに利用を続けてもらえるよう、つなげていくことが重要だと感じた。

(JR 兵庫支社長)

- ・地域の方々に喜んで参加いただけるイベントはありがたい。
- ・公共交通は乗ることが手段であるが、移動する動機付けが必要と考えている。外出機会の創出にも公共交通が重要であると感じた。JRとしてもサポートしていきたい。

(中播磨県民センター長)

- ・サイクルトレインはJRにも格別のご理解をいただいて特別列車を運行いただいている。DCと連携した取り組みをさらにできないか今後相談させていただきたい。輪行は非常に多いと聞く。姫路駅からは難しいかもしれないが、利用の少ない区間は現実的なのではないか。和歌山で実施されているように柔軟にサイクルツーリズムに取り組みられればと考えている。

(朝来市長)

- ・確認だが、協議会への報告は資料1と2の両方を持って行うということでよいか。

(事務局 (但馬県民局))

- ・その通りである。

(はぐくみの郷部会長)

- ・AsaGooood!Mama! というグループのSNSを通じて、地域の子育て世代に対して、WESTERの紹介をした。本日時点で約100人に見いただいている。今後利用拡大に寄与できれば。

(藤田議員)

- ・目標設定の根拠について、輸送密度 2000 人とあるが、数字が一人歩きするのではなく、実効性のある数値でなければならない。自家用車で移動できない方がどれくらいいて、その方々をどのように公共交通を利用可能性があるか、分析が必要。インバウンド需要をどの程度取り組むことができるか、分析が必要。時間帯料金等を導入すれば経営効率が上がり、ローカル線に裂く余裕ができるのではないか。播但道、遠阪トンネルの料金体系とも調整が必要では。そのような調査を行った上で、目標を定める必要があると考える。兵庫県として調査業務を検討してほしい。

(JR 福知山管理部長)

- ・インバウンドに関しては、これからの取り組みとして検討していきたい。
- ・輸送密度 2,000 人未満は、鉄道としての役割を果たせていないと考えている数値であり、我々から提案している数値となる。
- ・時間帯別料金に関しても検討を進めているところであり、今後導入に向けて進めていく。

3 総括・挨拶

(但馬県民局長)

- ・協議会への報告はゴールではなく、スタート。
- ・これまでのご協力に感謝申し上げますとともに今後のご協力もお願い申し上げます。